

経営比較分析表（令和元年度決算）

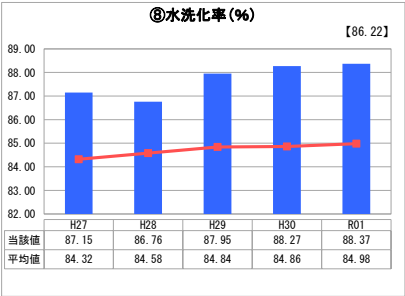
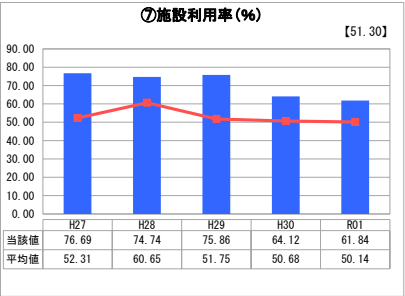
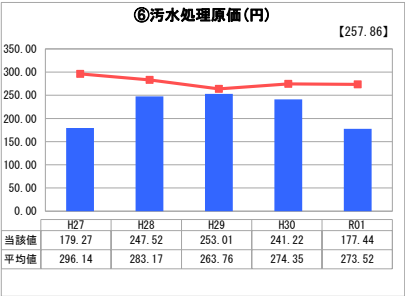
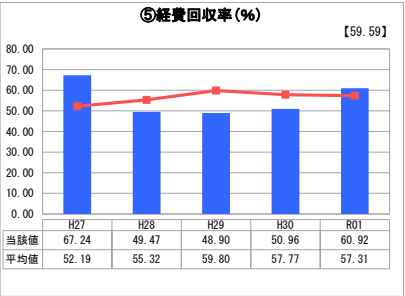
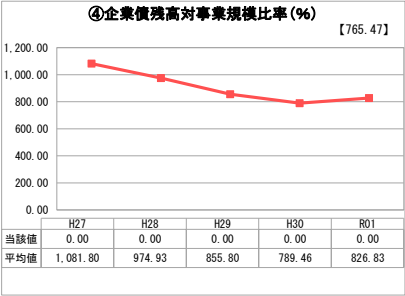
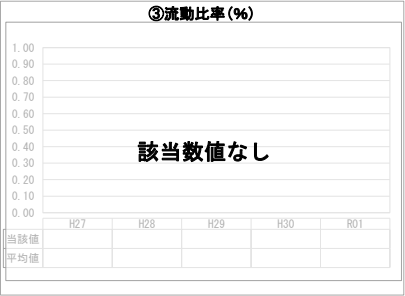
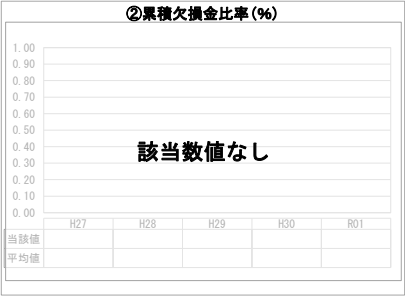
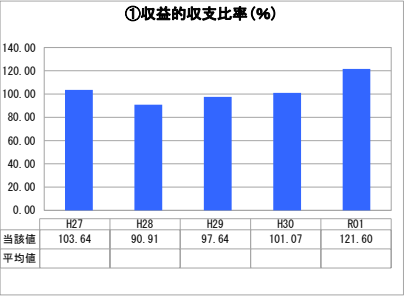
栃木県 佐野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	2.33	77.58	2,200

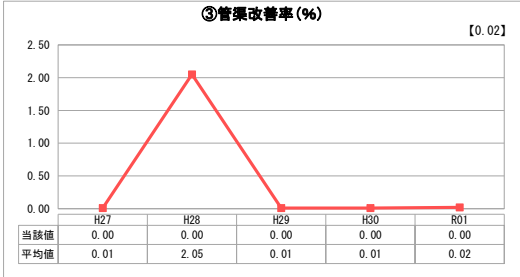
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
117,968	356.04	331.33
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,742	1.49	1,840.27

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は、総収益は前年度比でほぼ横ばいだったのに対し、施設改修工事等がなかったことにより総費用が減少したため黒字となっている。

経費回収率は前年度比で増加であり、全国平均及び類似団体平均値より高い値を示しているが、未接続世帯への戸別訪問等により水洗化率の向上を図るとともに、一定の時期に使用料改定を行い経費回収率の更なる向上を図る必要がある。

汚水処理原価は、全国平均及び類似団体平均値を大きく下回っており、効率的な汚水処理を行っている状況である。

施設利用率は、年々減少傾向にあるが、全国平均及び類似団体平均値より高いことから、適切な施設規模で運営できていると分析する。

2. 老朽化の状況について

令和元年度末現在で1地区あるが、14年が経過しており、老朽化が顕著になってきている。管渠の老朽化はあまり見られないが、処理施設の機械設備等の故障が多くなり、維持・修繕費用が年々増加し、機能強化対策が必要となっている。

全体総括

佐野市の農業集落排水事業は、平成17年度に新規建設事業が終了しており、今後処理区域を拡大する計画もなく、現在は処理場の維持管理が主な事業となっている。

事業の性質上、市街化区域外であることから人口減少が顕著である。

今後は、残り1地区について、既存の管渠を利用しつつ公共下水道に切り替え、維持・修繕費用の増加を抑制するとともに、近い将来に訪れる更新費用の発生を防止する。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。